



関西パビリオン

「関西パビリオン」の滋賀県ブースは2つから成り、ウォークスルー形式で、好きなタイミングで入退場が可能です。

世界初「KLV」による450個の光る球体が映像とシンクロ

関西パビリオンは関西広域連合が主体となり、滋賀県、京都府、兵庫県、和歌山県、鳥取県、徳島県、福井県、三重県が各ブースを出展。大阪府・大阪市は、隣接する形で大阪ヘルスケアパビリオンを独自に展開されています。各ブースを拝見しましたが、それぞれの地域の特色を生かした工夫が凝らされており、関西パビリオンだけでもじっくり見て回ると1時間ほどかかる充実した内容でした。



ブースメインショーエリアでの演出



ブースエントランス



関西パビリオン中央部



ブースエントランス



関西パビリオンエントランス

大阪・関西万博
関西パビリオン完成
お披露目会

3月23日、関西パビリオンの完成お披露目会が開催され、関西広域連合議員として出席してまいりました。

「エントランスエリア」では、大阪湾の水と琵琶湖のつながりを表現する映像が流れています。

本日より開幕した大阪・関西万博は「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに大阪・夢洲で10月13日(月)まで184日間開催されます。158の国や地域と7の国際機関が参加しており、Poole's Living Lab (未来社会の実験場)のコンセプトを実現すべく、最先端の技術やシステムが集結、来場者は新しい社会を体感できます。



詳しくはQR



EXPO 2025
大阪・関西万博
いよいよ本日より開幕



関西広域連合議会
3月定例会一般質問

昨年の10月から関西広域連合議会議員として活動しております。

関西広域連合議会は滋賀県のほかに京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、徳島県、京都府、大阪市、堺市、神戸市の2府6県4政令市から選出された40名の議員で構成されており、滋賀県からは4名が参加しています。

3月1日の関西広域連合議会3月定例会の一般質問に登壇しました。

デジタル化の推進について

三日月連合長2期目の方針として、「防災力の向上」「産業力の向上」「文化力の向上」「環境保全力の向上」「広域自治力の向上」の5つを掲げられた。ひとつとして簡単に実現できるものではなく、そこに連合長の強い意志を感じ、だからこそ実現に向けた手段としてDXの推進に取り組む必要があると考える。

コロナ禍において43回にわたる対策本部会議を開催し、構成府県市の状況や取組の共有、住民向け統一メッセージの発信等関西が一体となって対応され、効果も一定あったと思うが、データ連携等がより進んでいけば、その効果もさらに大きかったのではないかと考える。

官民挙げてDXを推進し、企業・市民・町村・府県を越えて連携し、関西の発展を図るため、オープンデータの整備や官民協働でのデータ活用に関する検討を進める「関西広域データ活用官民研究会」を関西広域連合が関西経済連合会と共に立ち上げられ、これまで5回開催されているが、現在の検討状況について。

三日月広域連合長 今年度は、モデルケースの創出を中心に取り組んでいく予定です。

昨年12月の研究会では、企業からデータ活用に必要なデータ整理に係る生成AIを活用した実証実験の提案があり、来年度に向けて、関心のある自治体を中心に引き続き、モデルケースの創出に取り組まします。



自治体データ連携基盤共用化研究会の進捗状況と、関西広域データ活用官民研究会との連動性について。

三日月広域連合長 大阪府の自治体データ連携基盤共用化研究会は、データ連携基盤の共用化に向けた知見の共有や課題解決等を目的としており、全国41道府県が参加し、これまでに3回開催されていると聞いています。

この研究会には、関西広域連合の構成府県がいずれも参加、関西広域連合もオブザーバー参加しており、関西広域データ活用官民研究会としては、大阪府の研究会と連携して、関西が一体となった「データ連携基盤の在り方」を中心に研究に取り組むこととしています。

関西全体で、例えば広域防災や医療の分野で、新型コロナの感染拡大や医療提供等の状況に係るデータ連携ができていけばより効果的な対策、取組も検討できたのではないかと。連合を中心として関西のデータ連携を進めるためには、構成府県の共同利用に向けた調整も重要だが、一自治体として広域事務を行う関西広域連合のデータを有効に活用するため、関西広域連合としてデータ連携基盤を整備することについて。

三日月広域連合長 関西広域データ活用官民研究会では、関西が一体となった「データ連携基盤の在り方」について、大阪府の自治体データ連携基盤共用化研究会と連携しながら研究をしています。

データ連携基盤については、構成府県ごとに整備状況等が異なるため、各構成団体の意向を踏まえながら研究していく必要があります。

引き続き、官民研究会の取組を通じて、様々な分野におけるデータ連携基盤活用の有用性に係る知見を積み重ねながら、府県域を越えて生活している住民や経済活動を展開している民間企業の利便性の向上など、関西の発展に資するデータ連携基盤の在り方を追求、検討していきます。

「伝統的造り」のユネスコ無形文化遺産登録について

昨年12月4日、日本時間では5日の午前4時前に、日本酒や焼酎、泡盛といった日本の「伝統的造り」が全会一致でユネスコ無形文化遺産に登録された。和食がユネスコ無形文化遺産に登録された際に、日本食の文化が高まったのと同様に、今回日本酒が世界から注目されることになる。関西広域連合という唯一無二の横の繋がりを生かして、日本酒の魅力、あるいは日本酒を通じて関西の魅力を国内外に発信すべきではないか。

関西広域連合として、伝統的造りの無形文化遺産登録に対する受け止めと、それを踏まえて、万博期間における関西一円の周遊観光をどのように促進するか、今後の取組について。

西脇副広域連合長 関西広域連合では、関西観光本部と連携し、酒蔵を巡り、お酒を通してその土地ならではの食や文化を楽しむ酒蔵ツーリズムを推進しています。

今年度は大阪・関西万博に向け、旅行会社や通訳案内士を対象に、関西各地の酒蔵を巡る視察旅行を6つのモデルコースで実施しました。例えば滋賀県では、酒蔵だけではなく、東海道の宿場町の歴史や文化も併せて紹介をし、参加した旅行会社からは、酒蔵の建物や歴史、ロケーションなど随所に特別感が感じられたということなど、商品化に向けた前向きな声も伺っています。

万博開催期間中は国内外から多くの誘客が見込まれることから、関西観光本部とも連携をして、酒蔵を巡る旅行商品化の促進、ホームページを活用した酒蔵の魅力発信の充実に取り組みとともに、例えば、関西各地の酒蔵を巡るスタンパラリーなどの実施についても検討するなど、関西一円の周遊観光につなげたいと考えています。

田中松太郎の日々の活動はSNS等で配信しています！



公式ホームページ
Facebook
Instagram
検索 田中松太郎
http://matsutaro.jp/